

新型コロナ禍における授業 およびFDに関するアンケート

調査実施期間 : 2020年10月7日(水) ~ 10月20日(火)

対 象 : 全国私立大学FD連携フォーラム加盟校 38大学

回 答 : 全38大学

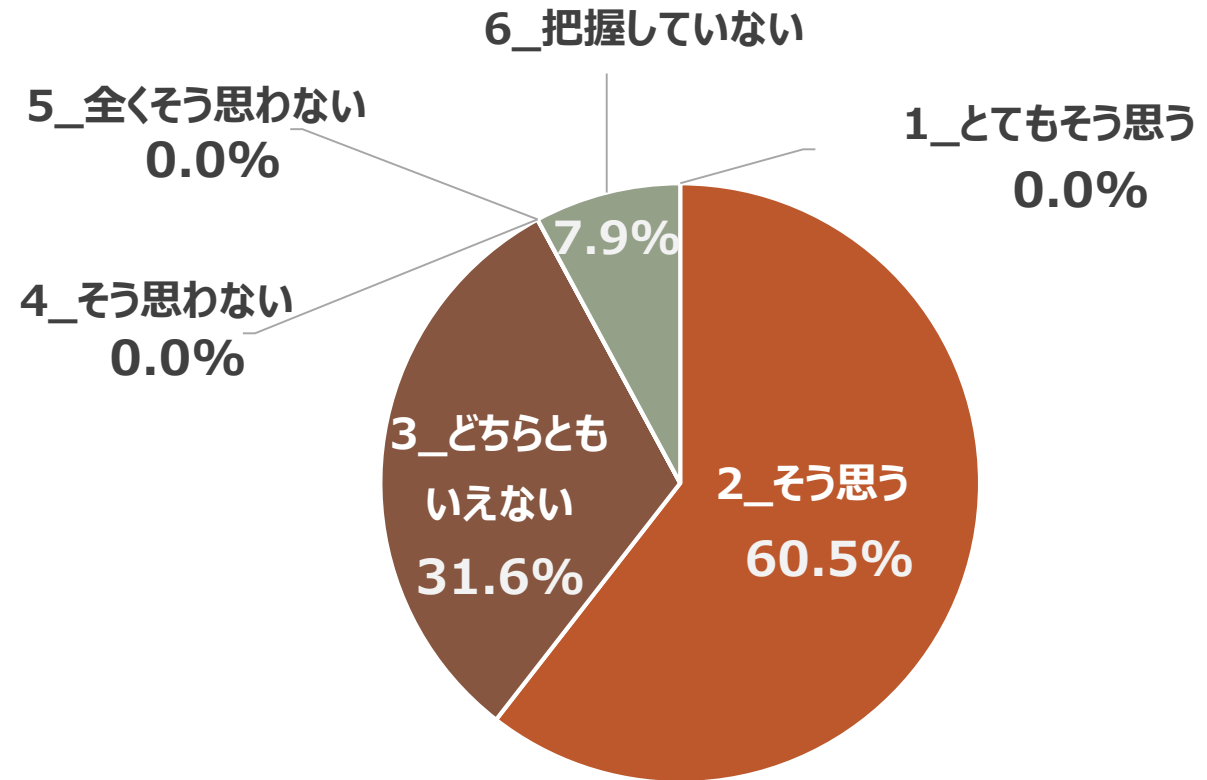


全国私立大学FD連携フォーラム
Japan Private Universities FD Coalition Forum

I. 授業に関すること

Q1. オンライン授業に関して、全体として授業目標を達成できたと感じますか。

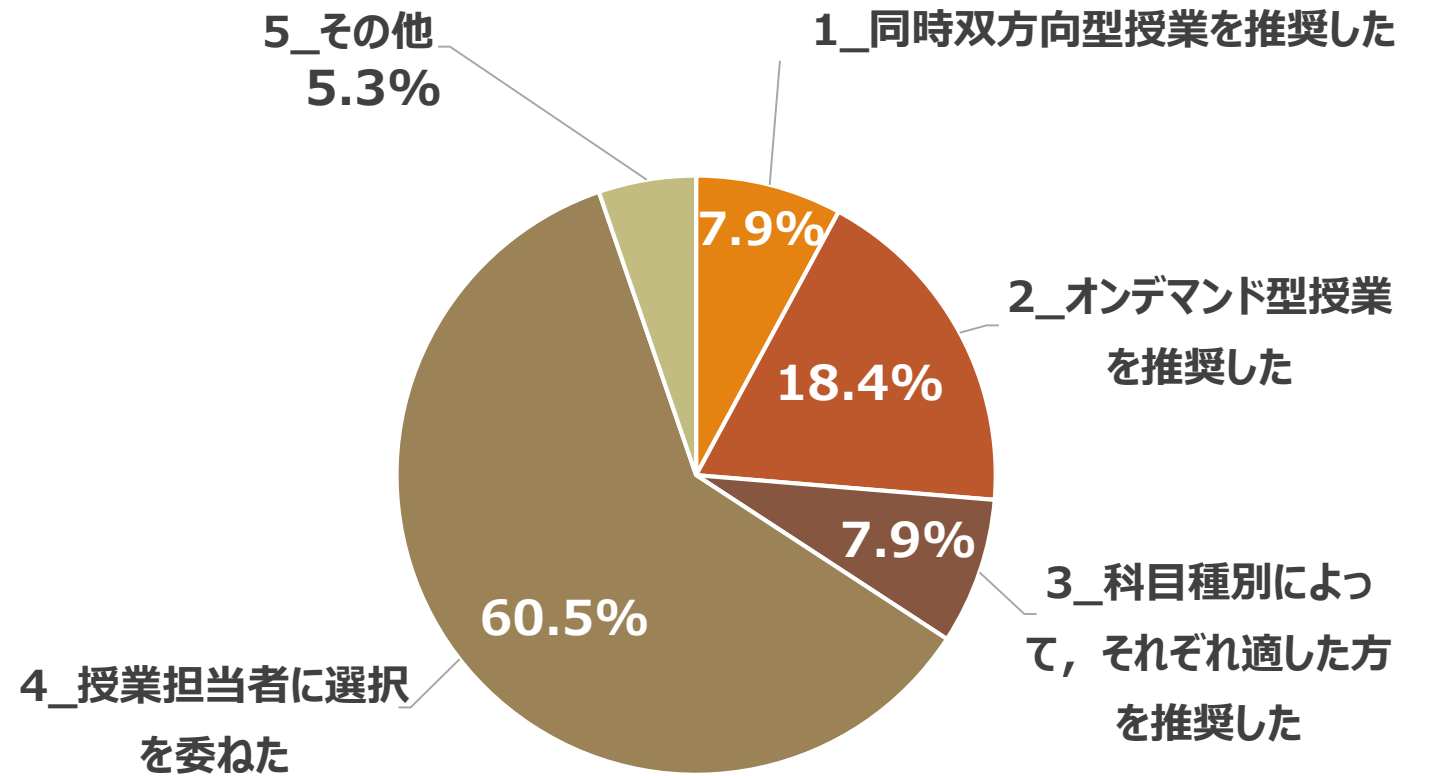
回答	回答数	回答率
1_とても思う	0	0.0%
2_そう思う	23	60.5%
3_どちらともいえない	12	31.6%
4_そう思わない	0	0.0%
5_全くそう思わない	0	0.0%
6_把握していない	3	7.9%
合計	38	100.0%



I. 授業に関すること

Q2. 大学として同時双方向型授業とオンデマンド型授業のどちらを推奨しましたか。

回答	回答数	回答率
1_同時双方向型授業を推奨した	3	7.9%
2_オンデマンド型授業を推奨した	7	18.4%
3_科目種別によって、それぞれ適した方を推奨した	3	7.9%
4_授業担当者に選択を委ねた	23	60.5%
5_その他	2	5.3%
合計	38	100.0%



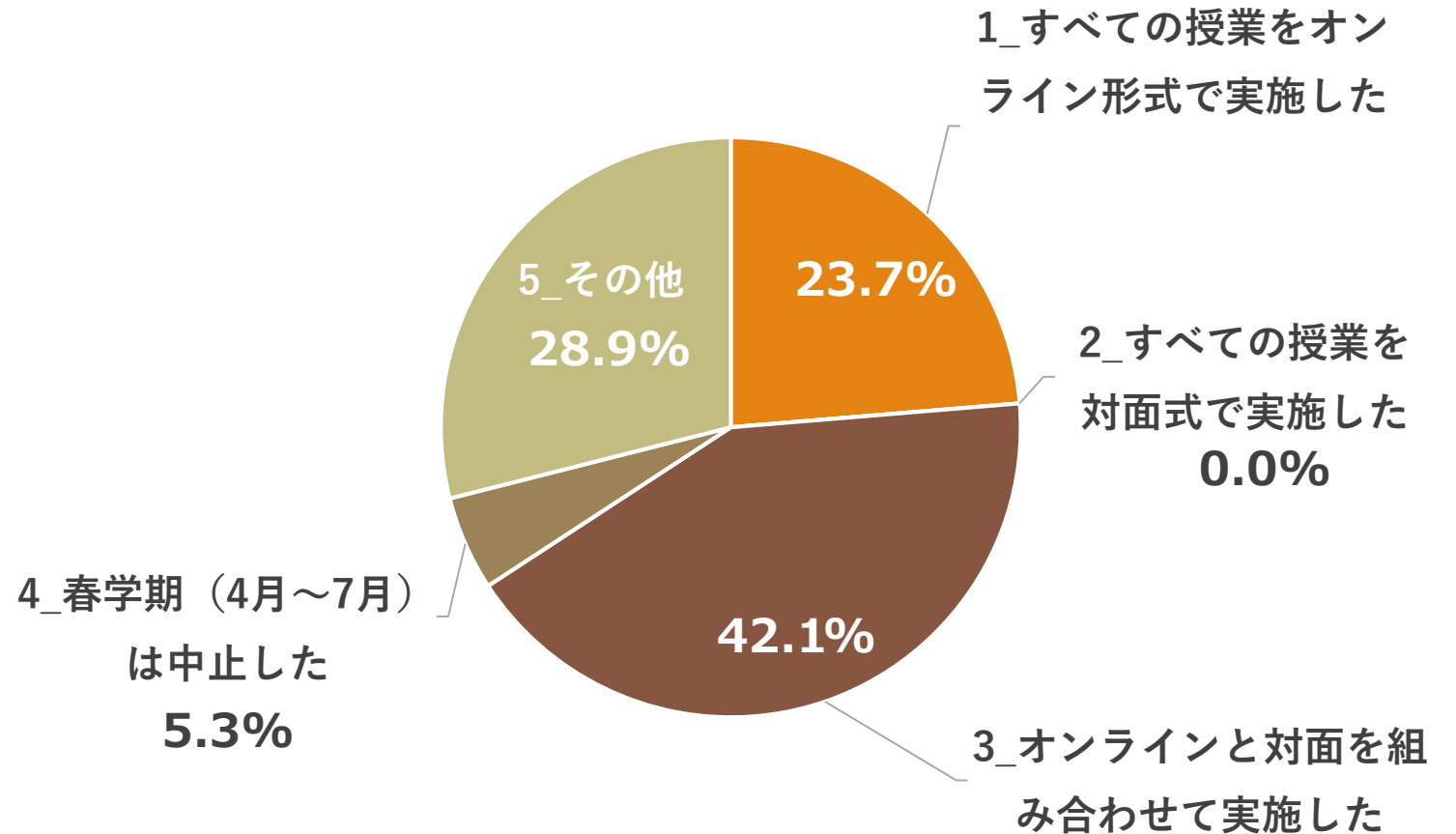
I. 授業に関すること

Q3. 実験・実習・実技系の科目はどのように実施しましたか.

回答	回答数	回答率
1_すべての授業をオンライン形式で実施した	9	23.7%
2_すべての授業を対面式で実施した	0	0.0%
3_オンラインと対面を組み合わせで実施した	16	42.1%
4_春学期（4月～7月）は中止した	2	5.3%
5_その他	11	28.9%
合計	38	100.0%

(その他)

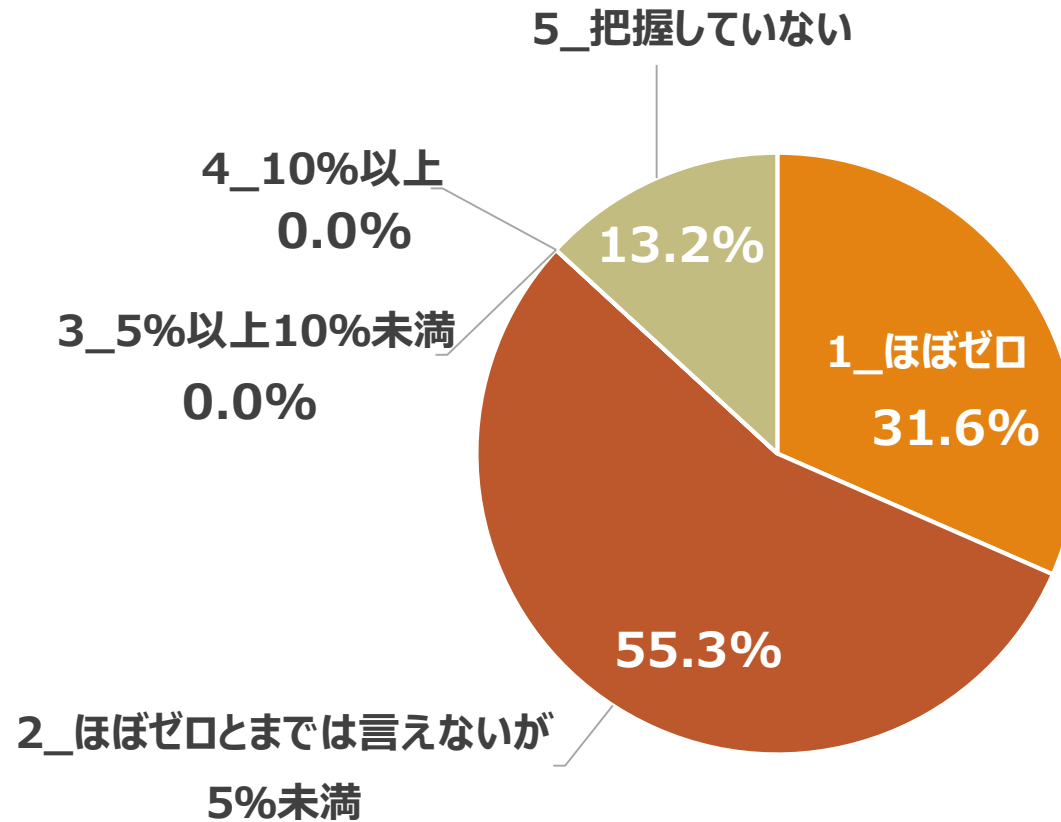
- ・対面式を希望する科目について、大学で許可した科目のみ対面で実施した
- ・6月あたりから徐々に再開した科目もある
- ・1～4についてを学部・研究科判断とした



I. 授業に関すること

Q4. 授業を担当する教員の意向で不開講となった科目はありましたか.

回答	回答数	回答率
1_ほぼゼロ	12	31.6%
2_ほぼゼロとまでは言えないが5%未満	21	55.3%
3_5%以上10%未満	0	0.0%
4_10%以上	0	0.0%
5_把握していない	5	13.2%
合計	38	100.0%



I. 授業に関すること

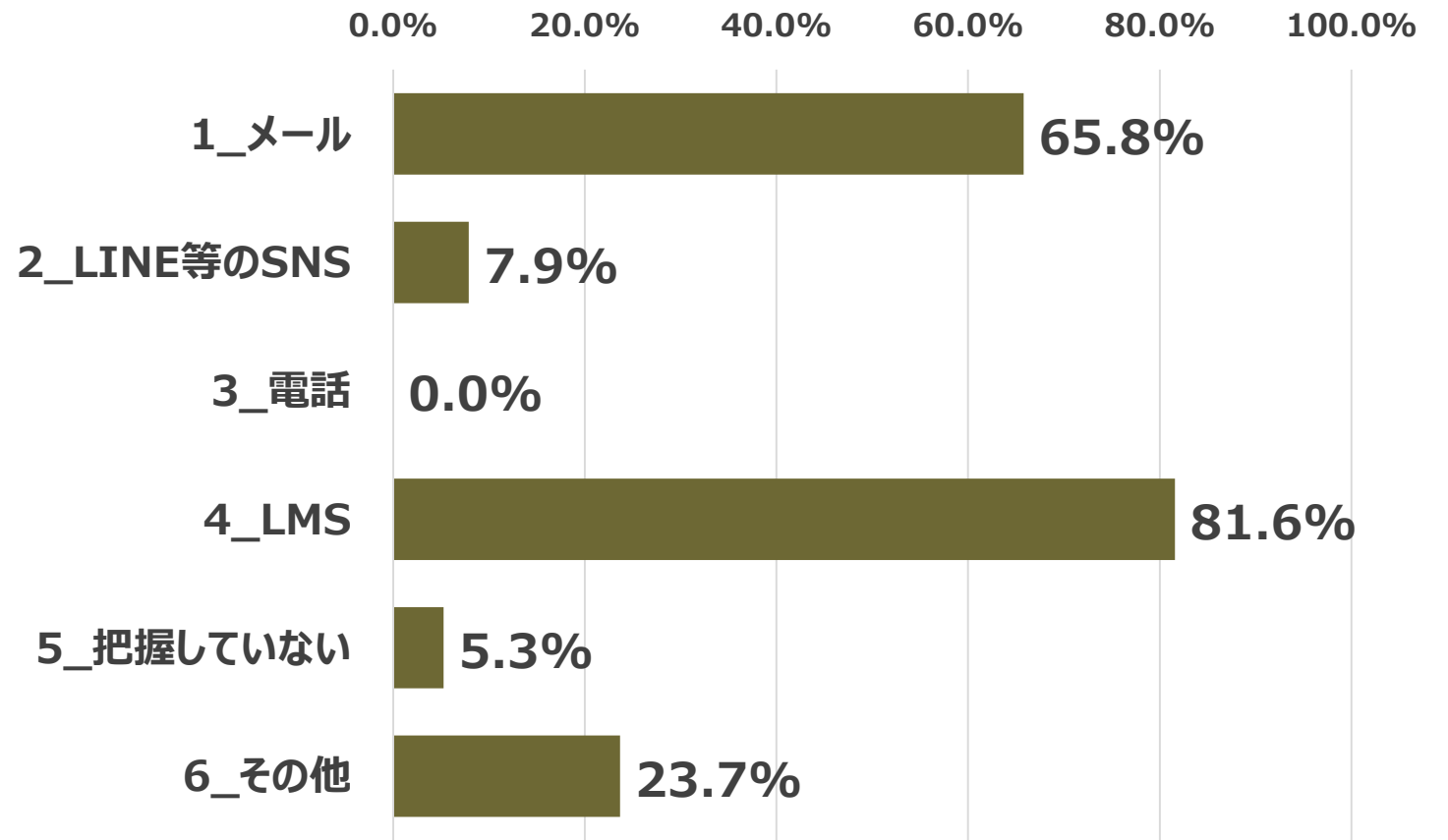
Q5. 授業を担当する教員は、学生と主にどのような方法でコミュニケーションをとっていましたか。
多かったものを2つまで選んでください。

回答	回答数	回答率
1_メール	25	65.8%
2_LINE等のSNS	3	7.9%
3_電話	0	0.0%
4_LMS	31	81.6%
5_把握していない	2	5.3%
6_その他	9	23.7%

※ 3つ以上回答している場合もすべて集計

(その他)

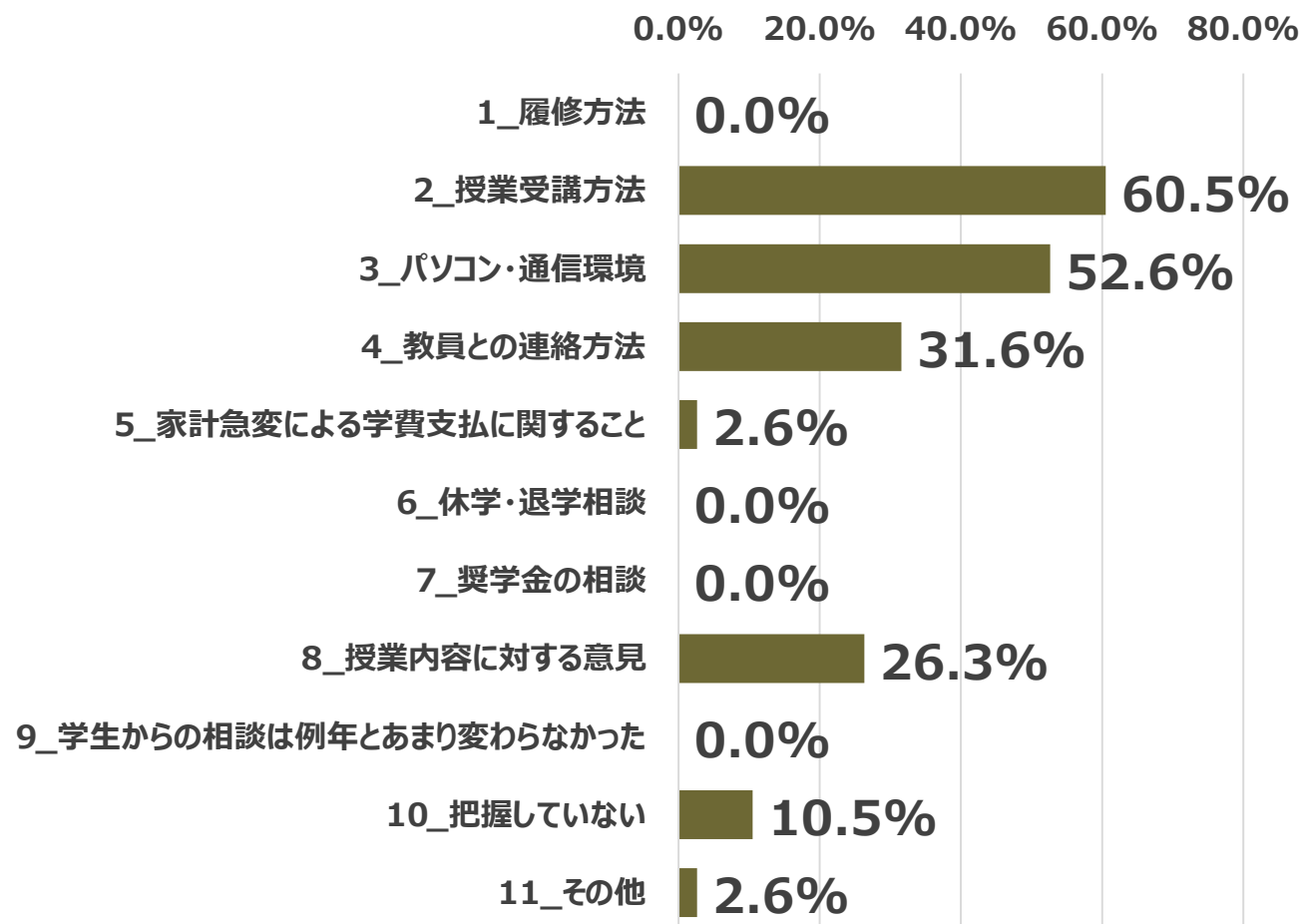
- ・学習支援ポータルサイト
- ・学内ポータルサイト
- ・LMS上のメッセージ（出席確認含む）
- ・Slack等



I. 授業に関すること

Q6. 例年に比べ、学生からの相談が多かったものを2つまで選んでください。

回答	回答数	回答率
1_履修方法	0	0.0%
2_授業受講方法	23	60.5%
3_パソコン・通信環境	20	52.6%
4_教員との連絡方法	12	31.6%
5_家計急変による学費支払に関すること	1	2.6%
6_休学・退学相談	0	0.0%
7_奨学金の相談	0	0.0%
8_授業内容に対する意見	10	26.3%
9_学生からの相談は例年とあまり変わらなかった	0	0.0%
10_把握していない	4	10.5%
11_その他	1	2.6%



Q7. オンライン授業を受講する環境が準備できない学生のために、どのような対応を取りましたか。 (1/2)

- アンケートにより準備できない学生の数を把握し、wifiルーターを貸し出した。
- ノートPCとWi-Fiルーターのレンタルを実施した。
- 大学からノートPCを貸し出し、学内でのPC利用を認める。
- ノートPC・wi-fiルーターの貸し出し、パソコン教室の利用（非常事態宣言解除後、事前申請制）
- ノートPC貸し出し、ポケットWifi、Zoomアカウントの配付、コンビニを活用したプリントサービス
- モバイルルーターとノートパソコンの無償レンタル
コンビニエンスストアでのネットプリントサービスの無償提供
環境の整わない学生に対する個別配慮を担当教員に依頼
- 通信機器（ノートPC、Wifiルータ※通信料含む）の貸与
家計急変のための緊急学生支援金（10万円）
印刷環境・通信環境支援（春学期：希望学生全員1万円、秋学期：全学生4万円）
メディア自習室・教室の予約方式による開放
- 学生向けにパソコン・ルーターの貸出しを行いました。
情報の一元化のためWeb授業に関する特設サイトの開設を行いました。
オンライン環境を整えるための支援金の給付を行いました。

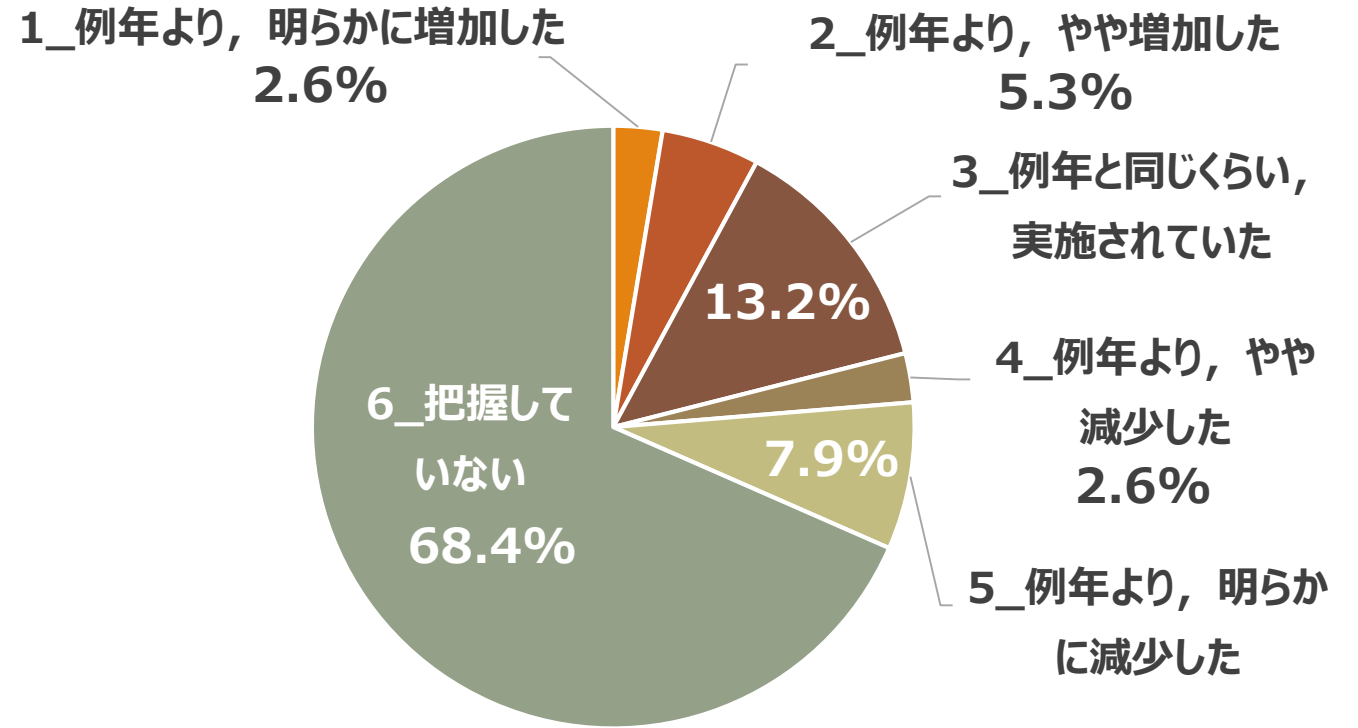
Q7. オンライン授業を受講する環境が準備できない学生のために、どのような対応を取りましたか。 (2/2)

- PC貸与、後期授業料減免
- 就学支援金の給付、ノートPCやモバイルルーターの貸与
- オンライン授業を受講するための環境を整備するよう呼びかけたところ、特に準備ができずに困っているとの相談はなかった。なお、情報環境整備に係る負担軽減として、希望者全員に修学支援金として5万円を給付した。
- 特別修学支援金(5万円)の給付
- 全学生一律5万円の給付金を支給
- 学修環境整備給付金として一人あたり一律5万円を支給
自宅のネットワークに問題がある学生への支援として、モバイルwifiの貸出(一部本学負担)を行った。
- 全学生に対して、遠隔授業のための緊急給付金として8万円を給付
- 全学部生に対して緊急奨学金を給付
- オンライン授業実施に伴う特別奨学金を支給した。

I. 授業に関すること

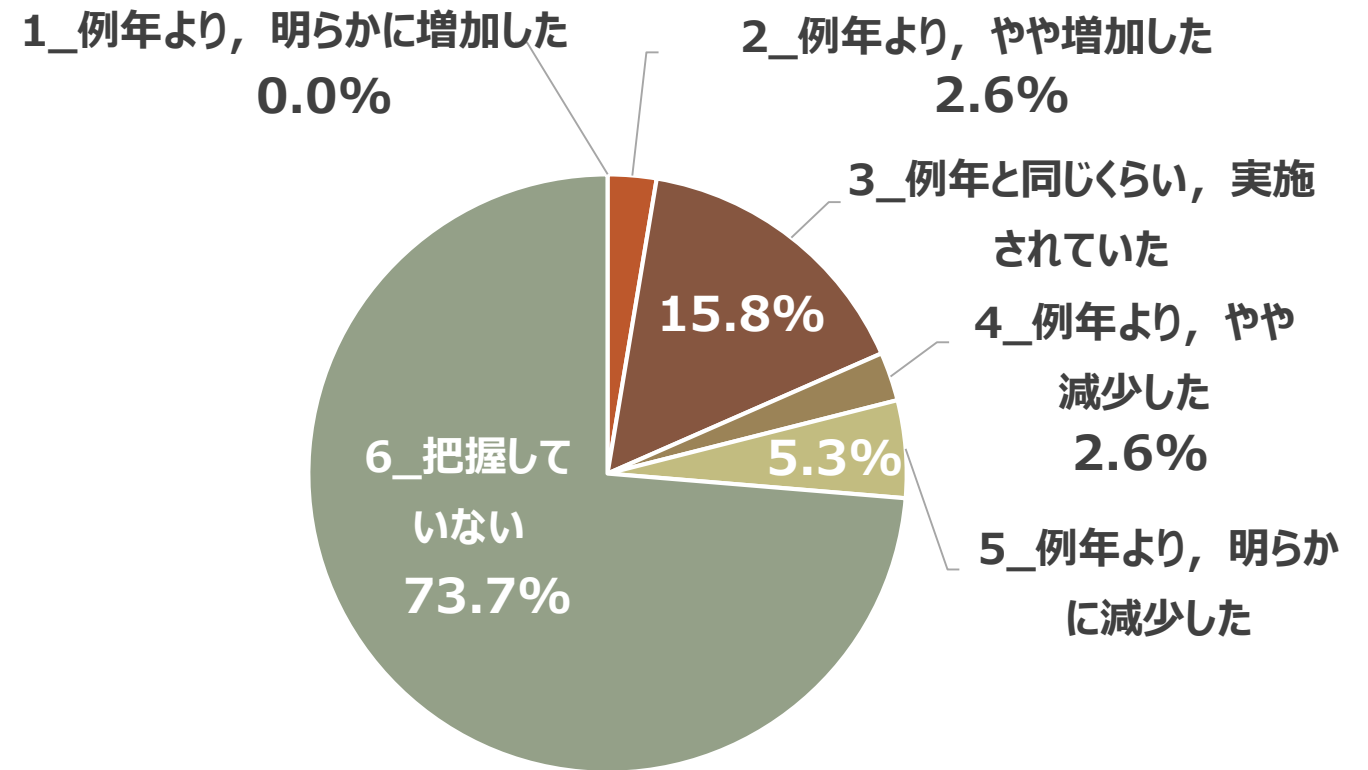
Q8. オンライン授業ではグループワーク等のアクティブラーニング型授業がどの程度実施されていましたか。

回答	回答数	回答率
1_例年より、明らかに増加した	1	2.6%
2_例年より、やや増加した	2	5.3%
3_例年と同じくらい、実施されていた	5	13.2%
4_例年より、やや減少した	1	2.6%
5_例年より、明らかに減少した	3	7.9%
6_把握していない	26	68.4%
合計	38	100.0%



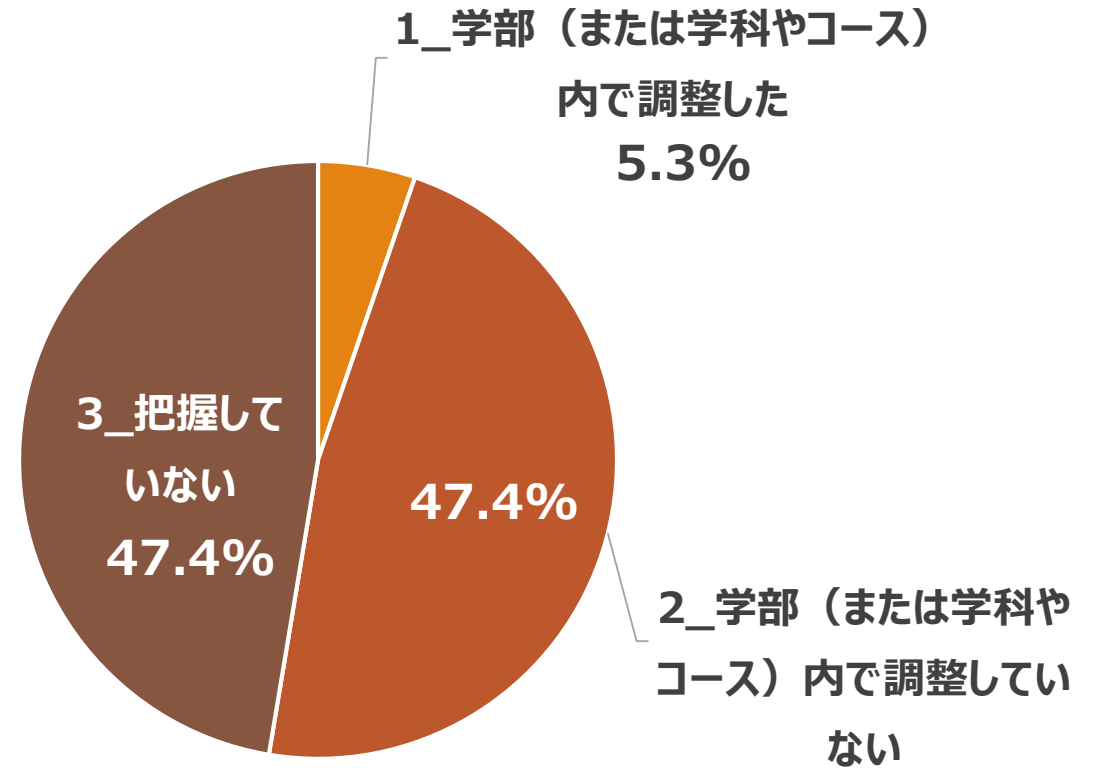
Q9. オンライン授業では学生による発表を取り入れた授業がどの程度実施されていましたか。

回答	回答数	回答率
1_例年より, 明らかに増加した	0	0.0%
2_例年より, やや増加した	1	2.6%
3_例年と同じくらい, 実施されていた	6	15.8%
4_例年より, やや減少した	1	2.6%
5_例年より, 明らかに減少した	2	5.3%
6_把握していない	28	73.7%
合計	38	100.0%



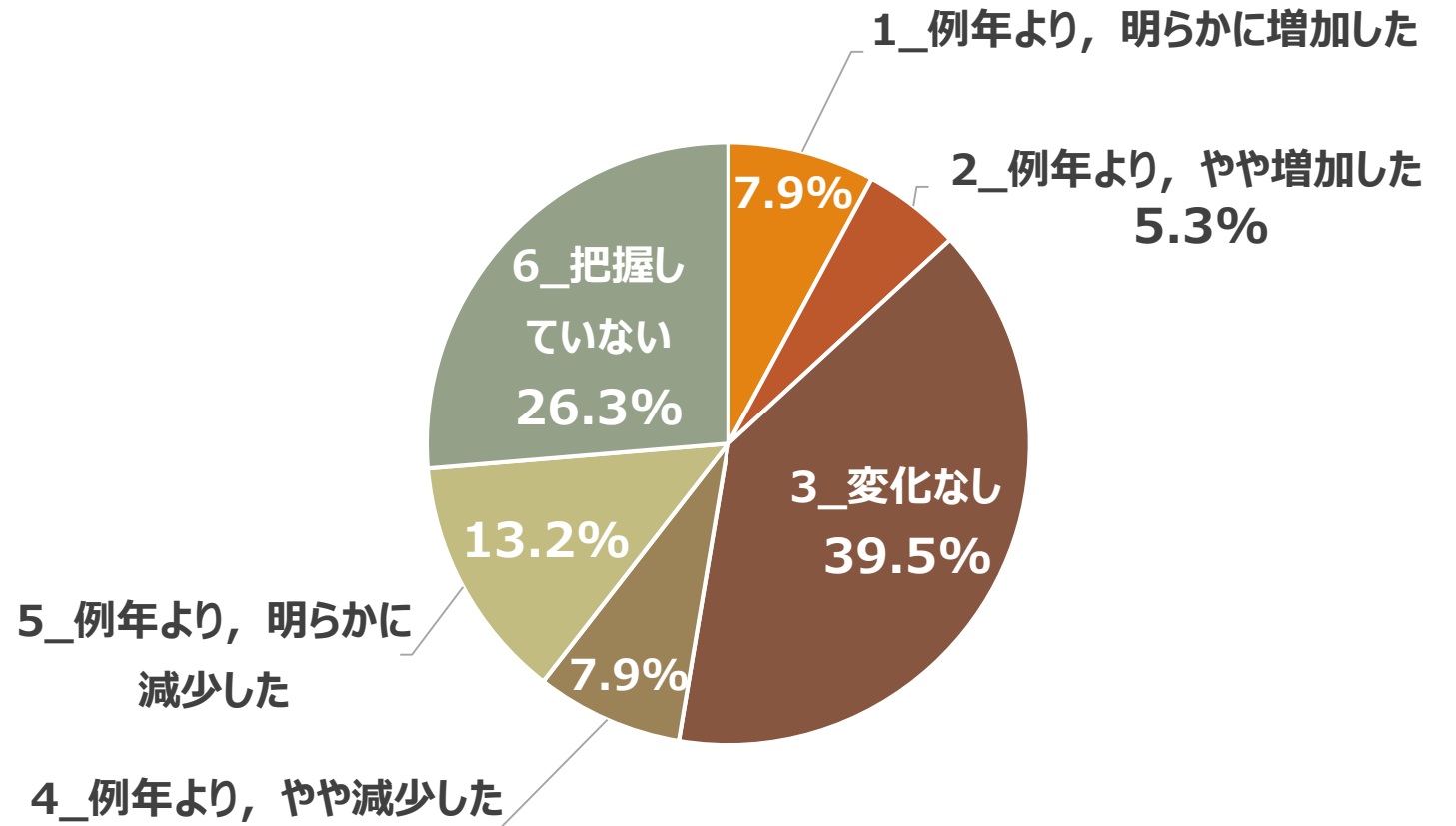
Q10. 貴学では、課題の量を学部（または学科やコース）で調整しましたか.

回答	回答数	回答率
1_学部（または学科やコース）内で調整した	2	5.3%
2_学部（または学科やコース）内で調整していない	18	47.4%
3_把握していない	18	47.4%
合計	38	100.0%



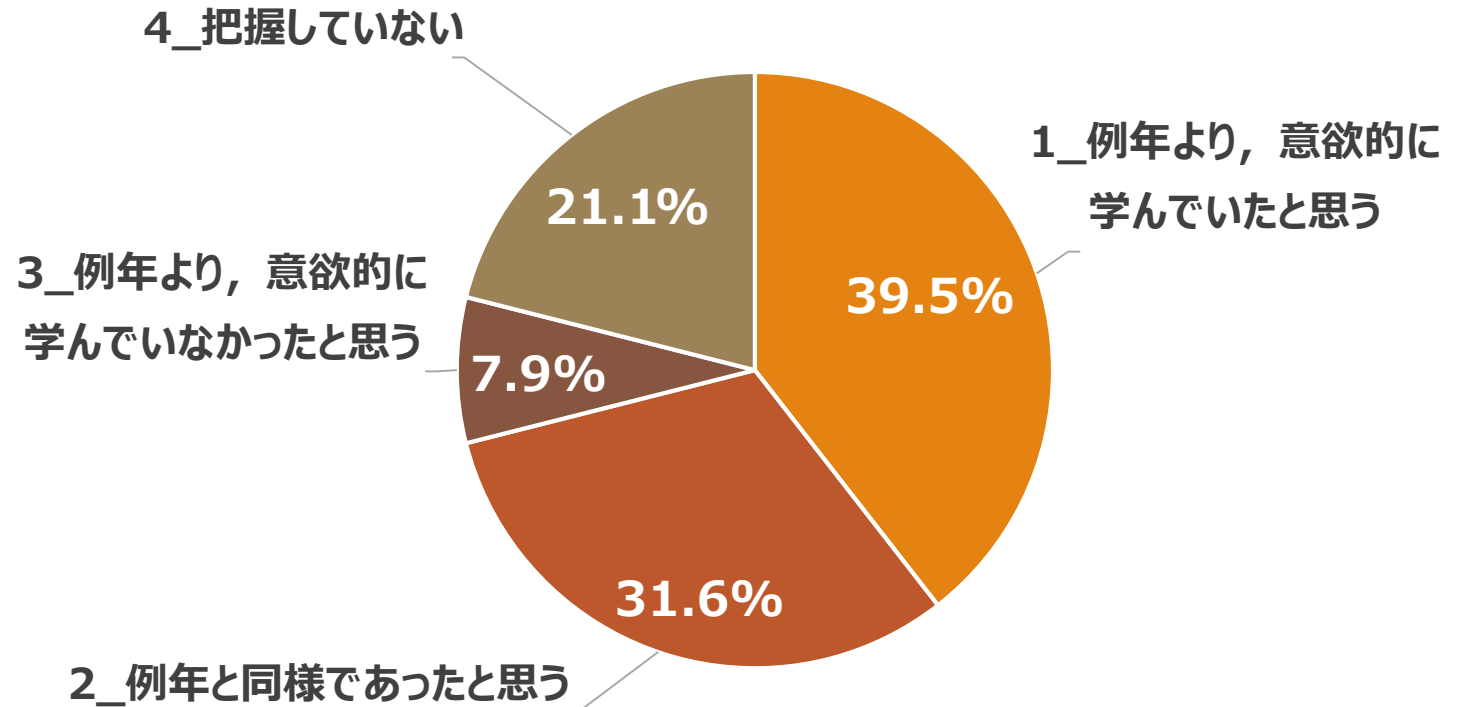
Q11. 学生の履修中止件数に変化はありましたか.

回答	回答数	回答率
1_例年より, 明らかに増加した	3	7.9%
2_例年より, やや増加した	2	5.3%
3_変化なし	15	39.5%
4_例年より, やや減少した	3	7.9%
5_例年より, 明らかに減少した	5	13.2%
6_把握していない	10	26.3%
合計	38	100.0%



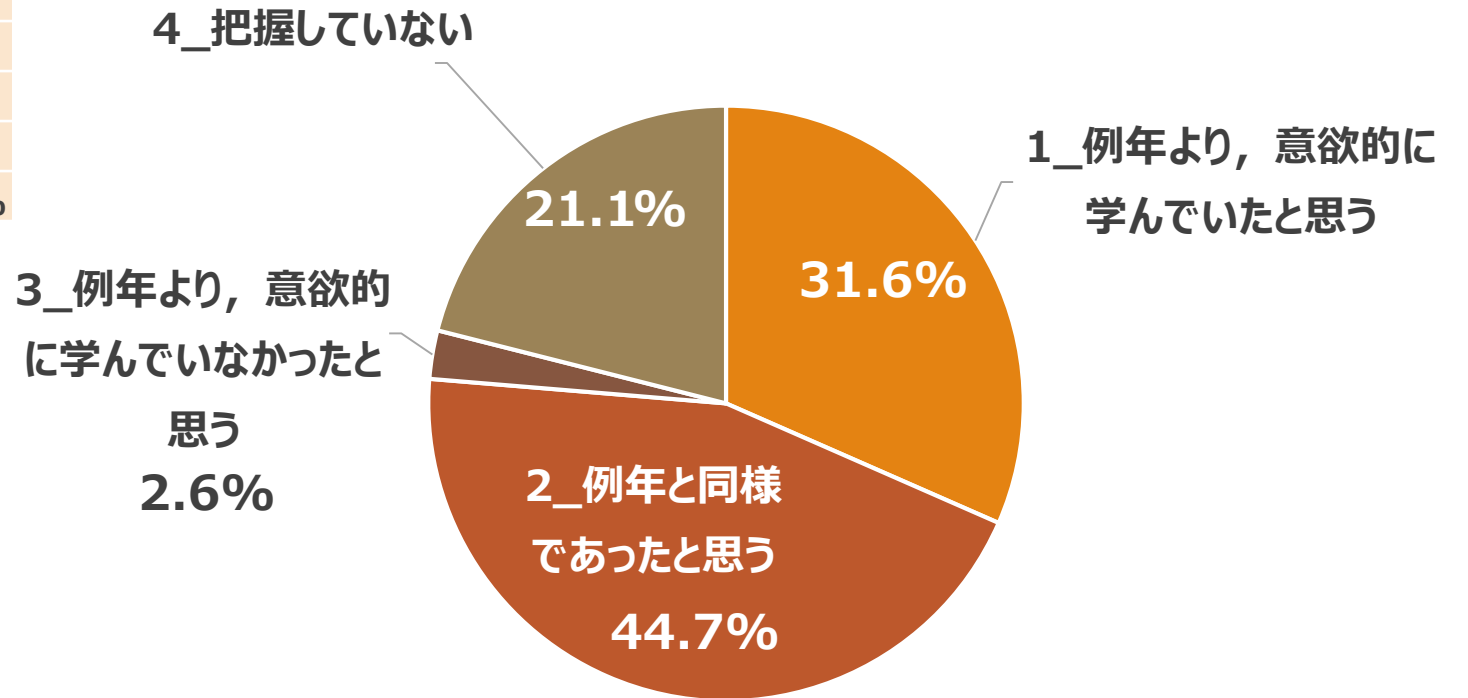
Q12. 新1年生の学習意欲についてどのように感じていますか。

回答	回答数	回答率
1_例年より, 意欲的に学んでいたと思う	15	39.5%
2_例年と同様であったと思う	12	31.6%
3_例年より, 意欲的に学んでいなかったと思う	3	7.9%
4_把握していない	8	21.1%
合計	38	100.0%



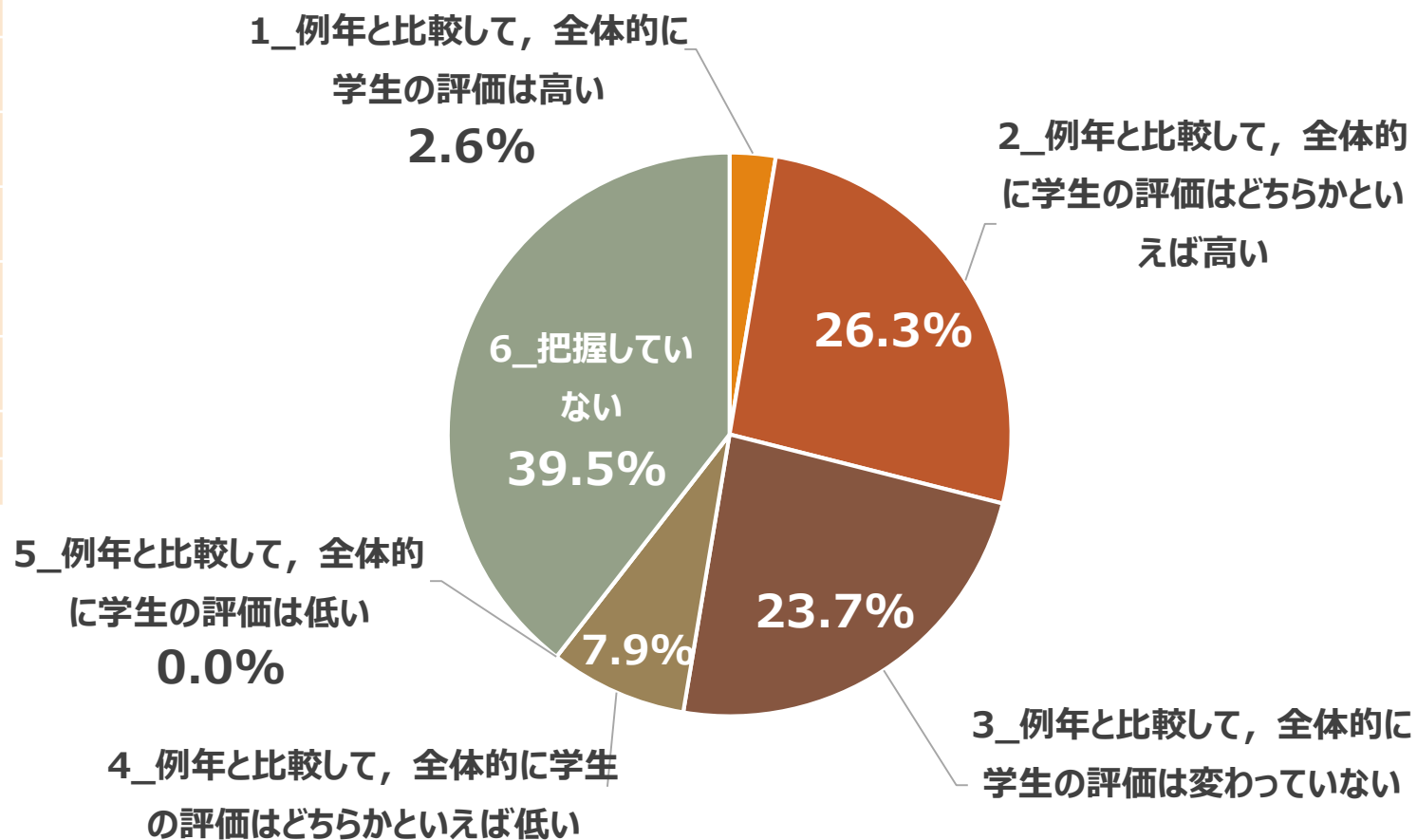
Q13. 2年生から4年生の学習意欲についてどのように感じていますか。

回答	回答数	回答率
1_例年より、意欲的に学んでいたと思う	12	31.6%
2_例年と同様であったと思う	17	44.7%
3_例年より、意欲的に学んでいなかったと思う	1	2.6%
4_把握していない	8	21.1%
合計	38	100.0%



Q14. 学生の授業評価の傾向について当てはまるものを選択してください。

回答	回答数	回答率
1_例年と比較して、全体的に学生の評価は高い	1	2.6%
2_例年と比較して、全体的に学生の評価はどちらかといえば高い	10	26.3%
3_例年と比較して、全体的に学生の評価は変わっていない	9	23.7%
4_例年と比較して、全体的に学生の評価はどちらかといえば低い	3	7.9%
5_例年と比較して、全体的に学生の評価は低い	0	0.0%
6_把握していない	15	39.5%
合計	38	100.0%



I. 授業に関すること

Q15. 【Q14で「把握していない」以外を選択した場合のみ回答】 学生による授業評価について上記のように選択された理由（何がどのように学生の評価に影響したと考えられるか）を、可能な範囲でご記入ください。（1/2）

【2_例年と比較して、全体的に学生の評価はどちらかといえば高い】

- 全学生へのアンケート調査の結果、特に講義形式の授業では評価が高い傾向にあり、通学時間が無くなったこと、オンデマンド授業では授業を見返せること、対面と遠隔 とで授業に差がないこと、などが挙げられたため。
- 質問がしやすい状況であった。何回も視聴可能なため理解が深まった。
- 遠隔授業では「何となく今まで通りに」といった授業ができないために内容の整理された授業が多くなったと思われる。
- 2020年度第1学期 学期末に学生に実施した授業アンケート結果の到達度の自己評価が昨年度より高かったため。

【3_例年と比較して、全体的に学生の評価は変わっていない】

- オンデマンド配信型授業については、自分のペースで学習できる点や、理解度に応じて繰り返し内容を確認できる点が評価されたと考えられる。
- 2～4年生の方がオンライン形式の授業に対して肯定的な回答割合が多く評価も高い一方、1年生は否定的な回答割合が多く評価も下がる傾向にある。対面授業を経験したか否かで、オンライン形式の授業に対する受け取り方が異なると思われる。

I. 授業に関すること

Q15. 【Q14で「把握していない」以外を選択した場合のみ回答】 学生による授業評価について上記のように選択された理由（何がどのように学生の評価に影響したと考えられるか）を、可能な範囲でご記入ください。（2/2）

- ・ 講義＞演習＞実験・実習の順で評価が分かれた。講義科目は高く、実験実習科目はそれと比較して低い結果となった。
- ・ 「学生による授業評価」の自由記述によると、対面授業を求める内容もあるものの、オンライン授業ならではの授業構成や、チャットを通じた双方向のやりとり、録画をして復習ができること等を評価する声も多くあった。それらが昨年度までの対面授業時と変わらない数値結果につながったと思われる。
- ・ 昨年度春学期集計と比較して変化がなかったため

【4_例年と比較して、全体的に学生の評価はどちらかといえば低い】

- ・ 課題が多い、集中しにくい、パソコンの操作に不慣れといったことが要因と思われる。

【6_把握していない】

- ・ 授業評価アンケートの設問項目を非対面授業に合わせて大幅に変更したことにより比較できないため。ただし、変更後の授業評価アンケートでは、授業が「よかった」「わりによかった」の肯定的な回答が約7割でした。
- ・ 現在アンケートを集計中のため、「把握していない」とした。

Q16. 貴学で全学的に実施されたCOVID-19への対応について、Good Practiceがありましたらご紹介ください。(1/2)

- 全学部対応の対策委員会を設置し、毎週開催したことにより、意思決定と情報共有が迅速にできました。
- コロナ禍の対応の意思決定機関として、大学首脳が参加する対策会議を1週間に1回のペースで開催し、大学としての方針決定を迅速に行った。
- 大学の活動制限方針をいち早く設定し、学内外に公表、周知徹底した。
- 6月22日以降、本学の活動制限方針のレベルに合わせ、図書館・ラーニングコモンズの利用を一部再開した。その際、入口に非接触検温装置を設置し、入退館記録を取るなどのコロナ対策を実施した。
- 全学生・全教員へのアンケート調査とこれに基づくFD研修会、遠隔授業実施への教員向けマニュアルの整備、遠隔授業に関するサポートサイト（学生向け・教員向け）の開設、図書館からの図書・資料の宅配サービスなど。
- 学修支援・教育開発センターが主催したFDサロン「オンライン授業における授業運営の工夫の共有」において、各学部の話者提供者から個人や学部でのオンライン授業における授業運営の工夫等を紹介し、オンライン授業運営のヒントを得る機会とした。
- 遠隔授業をテーマとしたFDフォーラムをオンライン形式で開催した。また、比較的早期に教員・職員・学生の三者による春学期の振り返りを行った。

Q16. 貴学で全学的に実施されたCOVID-19への対応について、Good Practiceがありましたらご紹介ください。(2/2)

- 図書館の「本の宅配貸出サービス(無料)」、オンライン女子会、遠隔授業に関するFDSD研究会(オンラインFD)、オンライン学修サポート室
- 特筆すべき点はないが、各大学が行っているような感染拡大防止対策(検温・消毒換気)に万全の態勢を取っている。
- (全学的ではなく一部の学部だが)学部の執行部教員が中心となり、学生との意見交換会をZoomで行い、学生からの生の声を聞いた。
- オンライン授業に関するアンケートを2回(5月、8月)行い、秋学期の授業実施に向けて活かすことができた。
- 学生へのサポートデスク開設、教員へのZoom等の使用方法の講習会開催
- 教員、学生向けそれぞれにオンライン授業サポート窓口を開設し、授業やLMSなどの困りごとに対応した。操作方法等を動画で配信した。
- アルバイト収入等が減少し学生生活が困難な状況の学生を対象としたHECS型貸与奨学金を創設した。
- オンライン授業に関するWikiを開設し、公式・非公式問わず素早く情報共有する場として活用した。
- 教職員が相互に疑問を解決し、ノウハウを共有するためのメーリングリストを開設した。
- 基本的には、文科省ガイドライン等に基づいた対応を行った。

Q17. 貴学で実施されたオンライン授業のGood Practiceについて、何か把握できている情報がありましたらご紹介ください。(1/2)

- ・ オンラインPBLの実施、Zoom授業は原則収録し後から閲覧可能に、反転授業
- ・ 学生が孤立しないようにホームルーム的な時間を設けた。
- ・ 都心キャンパスでは、ハイブリッド授業を行い、3日に1回の登校日としています。72時間以上の間隔が空くため感染対策が叶うとともに、学生同士のコミュニケーションの場をつくることができています。
- ・ コロナ禍により、急遽のオンライン授業に対応する中で、授業収録映像の増加による本学ポータルサイトの容量圧迫について、クラウド上の動画配信を活用することで、その負荷を減らし、授業配信をスムーズにした。
- ・ ZOOMを使用したリアルタイム授業の運営について、教育・学習支援センター（CETL）と教務部が連携し、4月から数回に渡り、授業運営、授業設計のためのオンラインセミナーを実施。いち早く対応したことで、コロナ禍の混乱を最小限に抑えることができた。
- ・ 全学的なセミナーの他、学部独自でZOOMの使い方勉強会を開催する学部も多く見られた。
- ・ 学生の通信量負担を軽減するため、ZOOMを使用したリアルタイム授業の場合も、授業の最初と最後のみ学生の顔を表示し、それ以外はビデオ機能をオフにした。
- ・ リアルタイム授業は収録し、終了後はオンデマンドでも視聴できるようにした。

Q17. 貴学で実施されたオンライン授業のGood Practiceについて、何か把握できている情報がありましたらご紹介ください。 (2/2)

- 大学のサーバやZOOMがダウンした際の代替連絡方法をあらかじめ通知した。(LINEグループなど)
- オンラインでも行えるアイスブレイクを導入し、学生の緊張感と不安を軽減させる努力をした。(白紙とサインペンをあらかじめ準備してもらい、クラスが開講するまでの間、自分の名前、出身地、趣味などを書いてもらい、すぐにお互いの自己紹介ができるようにするなど)
- これまで学内ポータルサイトのLMS機能を使用してこなかった教員も、小テスト、クリッカー、振り返り機能などを活用するようになり、それに伴い、評価方法も見直され、形成的評価にシフトする教員が増えた。
- コロナ禍で制約された環境下において、ICTツールを駆使し、オンライン授業の運営に尽力している授業科目担当者や、学生の学習意欲を高める教学主体の取組を称賛する「ICT教育賞」を設けた。現在選考中であり、約30件の活動が報告されている。
- 全学生・全教員へのアンケート調査

Q18. オンライン授業を実施する上で、課題だと感じていることがありましたらご記入ください。 (1/2)

- 大学側・学生側の通信環境の整備
- 学内のWiFi環境の整備が課題であり、学内のWiFiがつながりにくい場所があったり、一定数しかアクセスできない状況である。
- 学生の通信環境およびITスキルや実験・実習・実技系科目への対応
- 通信環境の問題、PCのスペック問題、Zoomでの顔出し問題、受講者の身体的・精神的負担感、課題量のコントロール、成績評価の難しさ、教員のICTスキルの差が授業に直接影響する問題
- 授業支援ツールのサポート体制
- 対応できない教員へのサポート
- オンライン授業に不慣れな教員・学生への支援
大学構内でオンライン授業を受講できる環境の整備
通学が困難な学生が対面授業を履修する場合の個別対応
- 学生によって通信環境が異なるため、途中でアクセスできなくなった学生への個別対応が発生する。
ZOOMのグループワーク機能を利用する際、グループワークが苦手な学生が意図的に授業を退室してしまう。
オンデマンド型授業の場合、教員との交流がなく、一方向の受講になってしまう。
成績評価など、結果だけがもどってきて、学生同士の交流がないため、自分がどこが良く、どこが違っていたのかを理解することができない。

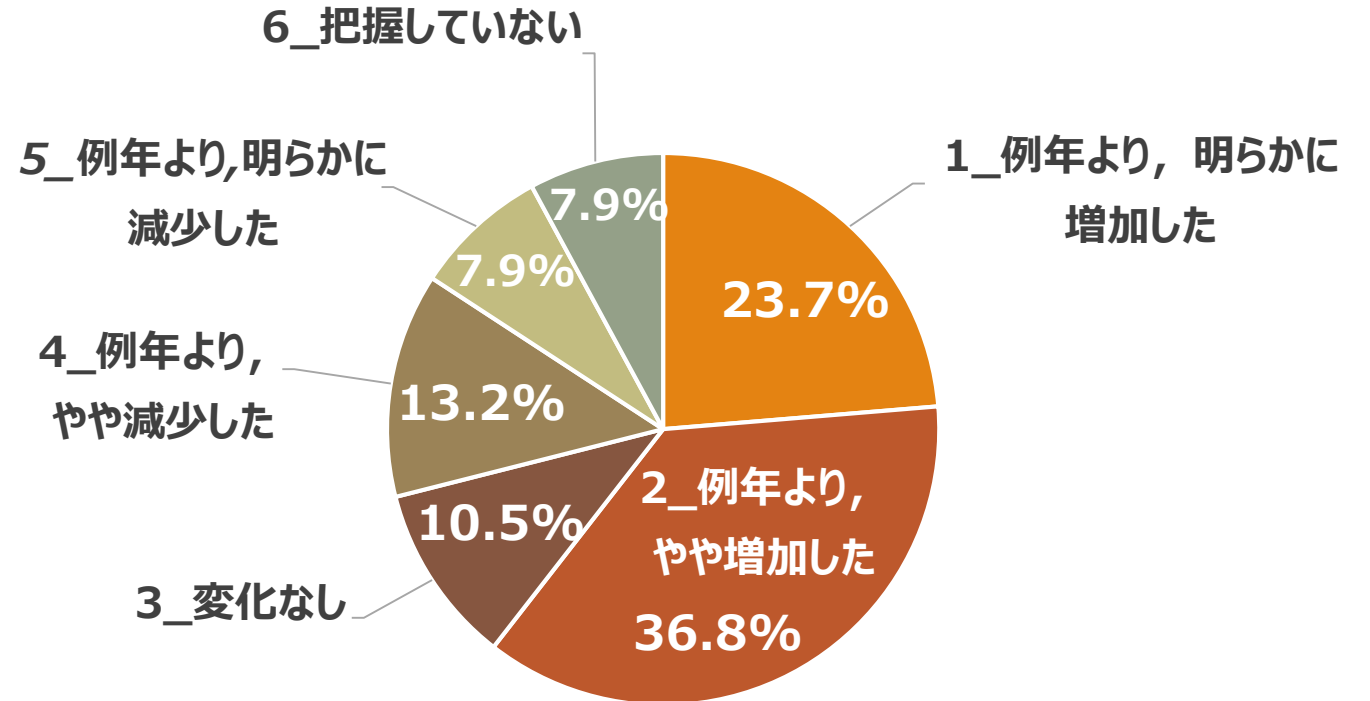
Q18. オンライン授業を実施する上で、課題だと感じていることがありましたらご記入ください。 (2/2)

- 担当教員によって、授業の実施方法が異なり、学生にとってわかりづらくなっていることが課題である。
- 1年生の登校機会を設けること
1年生の履修科目数が多すぎる（平均13科目以上）
資料課題提示型授業のクオリティの問題
オンライン定期試験の不正防止、剽窃ソフトの導入要望
オンライン授業のメディア授業化
学内ネットワーク環境の整備
実施方法の教員への理解と周知
- 学生と教員とのコミュニケーション方法
- 教員からの課題の量
- ①課題の量、②通信環境、③学生への連絡指示、④孤独と感じる学生へのケア
- 教員・学生の負担軽減と、オンライン授業の質を高めることの両立を図ること。
- 語学科目を中心に起きているが、教員はZoom等の対面式授業だけでなくWeb教材との組み合わせで効果的な授業を用意したが、学生・保護者は全て対面式の授業を望んでおり、理解を得ることが難しい。
- 上述のハイブリッド授業に関しては、対面・非対面両方の履修者がいるため、授業運営の負担、成績評価の公平性を課題に感じています。

II. FD活動に関すること

Q19. COVID-19の影響でFD活動の実施時間数や参加者数に変化はありましたか。

回答	回答数	回答率
1_例年より, 明らかに増加した	9	23.7%
2_例年より, やや増加した	14	36.8%
3_変化なし	4	10.5%
4_例年より, やや減少した	5	13.2%
5_例年より, 明らかに減少した	3	7.9%
6_把握していない	3	7.9%
合計	38	100.0%



Q20. Q19で上記のように選択された理由を、可能な範囲でご記入ください。(1/3)

【1_例年より、明らかに増加した】

- ・ 感染症対策の関係で、全ての授業が急遽オンラインでの実施となり、それに対応するためのFDを実施した。そのため、参加者の危機感や必要に迫られている状況から、専任や非常勤に関わらず、参加者が大幅に増加した。学部個々で主体的に実施するFDなども活発に行われ、学部としてもオンライン授業への対応に努力した結果も数値にあらわれていると思われる。
オンライン開催ということで、参加のハードルが下がったことも参加者数増加に影響したと考える。
- ・ Web授業への対応、準備のFDが増加したこと。
オンライン化に伴う参加ハードルが下がったこと。
- ・ オンライン授業を実施するにあたり、各学部等で組織的に取り組まれ参加者が増加した。また、学内シンポジウムをオンラインで実施し、昨年度より参加者が増加した。
- ・ オンラインによる「遠隔授業に関するFDSD研究会」を立ち上げ、定期的にzoomによるFDを実施した（これまでに11回実施）。Teams上に情報共有のためのチームを作成し、教職員で共有、情報交換を随時行った。「教育関係共同利用拠点」としてのワークショップはすべてzoomによるオンラインによって実施している。遠方の方からの参加者が増えた。
- ・ 複数回、遠隔授業実施に関するFDを実施した。
- ・ FD研修をオンライン開催に切り替えたことにより、教員が参加しやすくなったと考えられる。

Q20. Q19で上記のように選択された理由を、可能な範囲でご記入ください。(2/3)

【2_例年より、やや増加した】

- ・ 教員が関心のあるテーマ(オンライン授業に関すること)を、オンライン形式で実施したため。
- ・ オンライン授業の運営方法をテーマとする研修会・説明会が行われ、手探りでオンライン授業を実施している教員にとってニーズの高いテーマだったと思われるため。
研修自体も対面ではなくオンライン上で行うこともあり、対面では都合がつかず参加できなかった教員も、場所や時間の制約がなく参加できたため。
- ・ 全学的なFDを担う高等教育推進センターにおいて、例年実施していない研修会を複数開催したため。
- ・ オンライン開催したことにより、移動時間等の制約がなくなったためか参加者が増加している。
- ・ オンラインで実施したことで参加しやすくなった。
- ・ Q15で記載したFD研修会の参加者数が例年のFD研修会と比較して増えたため。
- ・ LMSの講習会への参加者が増えたため。

【3_変化なし】

- ・ 対面と遠隔を利用して時間的には例年通りのFDが行われた。
- ・ FD担当部署で学内各組織のFD活動状況を集計しており、例年と変化ない実施状況を確認しているため

Q20. Q19で上記のように選択された理由を、可能な範囲でご記入ください。(3/3)

【5_例年より,明らかに減少した】

- ・ ワークショップ等、対面を推奨するFD活動やFD関連の研修会・セミナー等が中止となったため
- ・ 教員・職員ともにオンライン授業の対応に追われたため

II. FD活動に関すること

Q21. COVID-19への対応として実施したFD活動等で、今後も継続していきたいと思うものはありますか。その内容について可能な範囲で具体的にご記入ください。また、その理由についてもご記入ください。(1/2)

- 全面的に対面授業に戻ることができるのがいつになるか見込みが立っていないこともあり、今後もオンライン授業における実践例の共有は継続していくものと思われる。
- 学部主体のFDの場。学部単位、科目単位でのFD座談会が頻繁に開催され、なんでも気兼ねなくオンライン授業運営等について相談できる場を設けていた。この結果、学部内での同僚性の高まりも見られている。学生による授業参観型の授業改善支援や学生による教員へのオンライン授業個別相談を実施した。
- 学生アンケートにて「特に良い授業」として挙げられた授業コンテンツの共有。オンライン授業に関わらず、授業運営方法について意識を高めることができるため。
- オンライン教育の積極的活用に係るFD活動
- 教員同士のピア・サポートの場所の提供
- COVID-19対策として様々な取り組みがオンラインで実施され、オンライン授業を題材にしたFD活動も開催された。前述のとおり、移動時間の制限がないなど、感染拡大防止にとどまらない効果があることが分かった。今後、状況が改善しても、オンラインや対面とオンラインのハイブリッドの事例紹介など、FD活動を継続していきたい。
- 後学期も同様に遠隔授業に関連したFD研修会を計画中。

II. FD活動に関すること

Q21. COVID-19への対応として実施したFD活動等で、今後も継続していきたいと思うものはありますか。その内容について可能な範囲で具体的にご記入ください。また、その理由についてもご記入ください。(2/2)

- 遠隔授業に関するFD
- LMSの講習会
- Zoom活用方法についてのセミナー（Zoomの基本的な操作からハイブリッド型授業への活用方法まで）
- Q20は今後も継続予定
- オンラインでの実施
- オンラインでのFD研修会は参加しやすいため、今後も活用すべきと思われた。
- オンラインによる研修は今後も実施していきたい。録画して当日欠席した方への案内もできるため。
- 学内シンポジウムにおいて、オンラインで実施したことにより自宅等から参加できる教員が増えたことから、今後もオンラインで実施していきたい。
- 参加者が参加しやすいように各FDを同期・非同期（オンデマンド）で実施する方法
- 動画視聴型のオンデマンド研修

II. FD活動に関すること

Q22. 本年度実施したFD活動等で困った点、課題だと感じた点はありませんか。その内容について可能な範囲で具体的にご記入ください。また、その理由についてもご記入ください。(1/2)

- 例年実施している4月冒頭のFD研修会が実施できていない。
- 前学期は、ほぼFD活動を実施できなかった。
- キャンパスへの入構が制限されたことや、教員がオンライン授業への対応に追われていたことで、FD活動を実施しづらくなった。
- とにかく遠隔授業準備・実施に時間と労力が使われ、FDに振り向けるエネルギーがとぼしかった。
- オンラインでのFDは、長時間の研修には不向き。90分～120分程度の研修以上のことは難しいと感じている。長時間になる研修は対面が必要と思われる。

オンライン授業運営の研修を実施しても、自由参加のため、本当に参加してほしい教員が参加してくれないといったことが起きた。

教員との連携について、電話とメールしか方法がない中だったので、事前に該当教員に個別に連絡をしても、つながらないということがあった。

FD研修の運営側が、Zoomなどのツールの使い方に慣れておく必要がある。外部の研修等に参加していても感じるが、機器の扱い方や設定方法が分からず、研修がスムーズに運営できないといったことがよく起こる。

Q22. 本年度実施したFD活動等で困った点、課題だと感じた点はありませんか。その内容について可能な範囲で具体的にご記入ください。また、その理由についてもご記入ください。(2/2)

- ・ オンラインで開催したところ、ツールの利用について個人差があるため、オンライン開催に慣れない参加者が、スムーズに参加できないことや、会議から意図せず退室することがあった。
不慣れな場合の対策として、事前のサポート(参加方法の案内)とともに当日連絡が取れる方法を周知すると参加しやすいと感じている。
- ・ 主催者側も参加者側もICTツールに慣れる必要がある点や通信環境を課題に感じています。
- ・ 教員対象に行ったアンケート結果から、授業の準備や実施の負担、学生とのコミュニケーション、成績評価の方法が上位となった。
- ・ オンライン授業における課題の提示及び評価方法
- ・ オンライン疲れも否めないため、対面形式とハイブリッド式との使い分けも必要であると感じる。
- ・ 参加率の低下(遠隔授業の対応によりFD活動へ参加する時間の確保が困難であるため)
- ・ オンライン開催での当日の欠席(いわゆるドタキャン)が増えた。

II. FD活動に関すること

Q23. この半年間をふりかえって、日頃から実施しておくべきだったと感じているFD活動等がありましたら、ご記入ください。(1/2)

- LMSの操作説明会等の実施
- LMSに関するFD
- LMSの効果的な利用方法
- LMSの活用の徹底(使っていない教員がいた)
- 教員、職員の基本的なICTスキルを向上させておくべきだった。
- オンライン教育に必要なスキルの修得。これを行うための仕組みづくり
- 対面以外での授業方法に関するFD
学内LMS等、ICTの使い方に関するFD
教員間で、担当授業の授業内容・方法について情報共有する機会の設定
- 対面授業に代わる授業方法の研修
- 効果的な教材の作り方(PowerPointの操作方法を含む)
学期末一括ではなく、毎回課題を出す場合の組み立て方
- 評価方法のFD活動
- 授業規模に応じたFDについて

Q23. この半年間をふりかえって、日頃から実施しておくべきだったと感じているFD活動等がありましたら、ご記入ください。(2/2)

- ・ オンライン授業により、支援を必要とする障がい学生への配慮がより必要となった。授業における基本的な障がい学生への対応方法について日頃からFDを実施しておくことで、不測の事態となっても適切な対応をとることができる。
- ・ 高等教育業界の動向を把握, 情報収集してFD活動の企画立案を考えておく。
- ・ 非常勤講師へのFDイベント参加促進
通常時から、運営側はイベントの機会を提供していたが、非常勤講師の先生方の参加は少なかった。これが、コロナ禍によって、参加者数が大幅に増加した。学生から見ると、専任教員も非常勤教員も大学で提供している授業に変わりはないので、授業の質向上のために行う必要があるのではないかと感じる。
- ・ BYOD